

# 2026年度 勉強会概要



勉強会の日程や最新情報は大阪学習センターウェブサイトまたはセンター内掲示でご確認ください。

※赤字の先生は2026年度新任の先生です。

	分野	担当講師	職名	タイトル	概要
通年開催	言語人類学・語用論・記号論	榎本 剛士	客員教授	言語人類学の問題系	「言語がどのように使われるか」に着目しながら社会・文化(そして、私たち自身)のあり様を読み解こうとする「言語人類学」について、基本的な視座・鍵概念・研究テーマの解説や、いくつかの本・論文(古典的なものから最近のものまで)からの一節の紹介を織り交ぜつつ、お話しします。皆さんのコミュニケーション体験や、担当講師のこれまでの/現在進行中の研究なども取り上げながら、なるべく対話的な形で理解を深めていきたいと思ひます。
	化学 高分子化学	佐藤 尚弘	客員教授	ノーベル化学賞と日常生活	ノーベル化学賞の受賞対象研究が、私たちの日常生活にどのように役立っているのかを、テキスト「ノーベル化学賞に輝いた研究のすごところをわかりやすく説明してみた」(山口悟著:ベレ出版)を読みながら、学習していきます。文系の方でも研究内容がわかるように解説します。2026年度は、上記テキストの「小さくて軽くて大きなパワーを持つ電池」、「クラゲから得られた緑色に光るタンパク質」、「鏡の世界の分子をつくる」を読み進める予定で、時間が余れば2026年のノーベル化学賞の受賞研究についても勉強いたします。
	経済史・経営史	鳩澤 歩	客員教授	近現代経済史の諸問題	『西洋経済史(新版)』有斐閣2025 など担当者の作成した経済史のテキストを題材として発展させ、近現代経済史の主要なポイントを確認、検討する。
	社会心理学・法と心理学	綿村 英一郎	客員教授	集団のなかの私たち —社会心理学で読み解く人の行動—	人はいつも同じ「自分」で行動しているわけではありません。集団の中に入った瞬間、判断が揺らいだり、普段ならしない選択をしてしまったり。私たちの行動は、思っている以上に周囲や場の空気に影響されています。この勉強会ではそんな集団心理にスポットを当て、「なぜ人はそう動くのか?」「自分や他者の行動をどう理解できるのか?」を身近な事例や対話を通して探っていきます。一方的に聞く講義ではなく、参加者同士で考え、語り合いながら進める参加型スタイルです。学校、職場、地域、家庭…あらゆる人間関係に応用できるヒントが見つかるはず。毎回参加しなくても大丈夫。「ちょっと気になるかも」そんな軽い気持ちで覗いてみてください。
前期のみ開催	数学 (確率論、計算論)	杉田 洋	客員教授	数学アラカルト	数学のコースではなくアラカルト、すなわち、数学一般のテーマについて毎回完結のお話しをします。高校数学文系修了程度の水準を想定します。初めのうちは講師がテーマを決めますが、そのうち受講生の皆さんからテーマを提案して頂くことも考えています。
	行政法	林 晃大	客員教授	環境保護について考える —環境法の視点から—	環境保護は、いまや地球規模で取り組まなければならない喫緊の課題です。この勉強会では、環境保護を法政策の観点から皆さんと一緒に学んでいきたいと考えています。
	哲学・倫理学	堀江 剛	客員教授	哲学対話を楽しむ	哲学対話(哲学カフェおよびソクラティック・ダイアログ)の紹介・実施と、哲学対話進行役に関する練習と検討を行います。
後期のみ開催	発達心理学・教育心理学	高橋 登	客員教授	発達心理学の古典に学ぶ	ピアジェやヴィゴツキー、エリクソンなど、発達心理学の古典は、今でも子どもを理解する上で重要な役割を果たしています。また、現在では定評のある解説書もあります。勉強会では、いくつかの書籍を取り上げ、これらの理論の現代的な意義を考えて一緒に考えていきます。
	金属材料学・機械材料学	堀川 敬太郎	客員准教授	金属材料の組織と特性の制御	身の周りに広く用いられている金属材料はその使用環境に適合するために、材料内部の組織が巧みに制御されています。本勉強会では、自動車や航空機等に用いられている金属材料の組織がどのように制御されて、優れた機械的特性が得られているのかを学びます。また、講師が現在進めている宇宙環境での材料の創成のプロジェクトなどについても紹介いたします。
	情報工学	安留 誠吾	客員教授	情報ってなに	2025年度の大学入学共通テストから「情報」が始まりますが、そもそも「情報」ってなんなんでしょう。これからの情報社会を生き抜くために必要なコンピュータやインターネットの仕組み、そしてAIなど情報科学の基礎を学びます。また情報に関わる最新の話題を取り上げて議論します。
	近現代日本語文学	渡邊 英理	客員教授	夏目漱石を読む	この授業では、夏目漱石の主要作品(小説と批評)を読み解き、その作品世界を味わうとともに、その思想の射程を探っていきます。作品の理解を促す時代背景や同時代の社会状況を踏まえて作品を精読し、あわせて、作品の世界から過去の、そして現在の世界や社会をめぐる知見を得ることも試みたいと思ひます。